



**丸みのある窓は
改修前のものを残した**

1階をブックカフェ『403.notfound』に。ソムリエの仕事をして見附さん念願の、自分のお店だ。印象的な2つの窓は、古材やアンティークの家具を使った内装の雰囲気にもよく似合う。



**ペンダントライトは
ひとつひとつ変えて**

それぞれデザインの違う照明は、見附邸のリノベーションを担当した『無相創』がオリジナルで制作。写真左側の窓の向こうが厨房。厨房とカフェの間の窓は、古い電車の窓のような、持ち上げて開くスタイル。



**味のある壁面は
下地材のまま仕上げ**

1.親戚が使っていたチェストを使い、部屋を緩やかに分けてベッドスペースに。窓には遮光のロールスクリーンを。2.2階のプライベート空間の壁は塗りむらを楽しめる下地材を使用。



Welcoming Space

Cozy cafe & house

祖母の家を孫が受け継ぎ、 カフェオーナーの夢を実現。

東

京都町田市の住宅地に立つ築約50年の2階建ての古民家は、見附春佳さんの祖母の持ち家だった。この家の前を通って学校に通っていた見附さんにとって、思い出深い家だ。

「もともと美容院として建てられた家だったそうです。その家を祖母が購入したのですが、祖母が亡くなった後は父が管理を任ざられていました。彫刻家の親戚が作品の保管場所として使っていたのですが、人が住まないともったいないということになり、私が住みたいとして活用することになりました」

リノベーションにあたり、1階を見附さん念願のブックカフェ『403.notfound』に。本格的な厨房も設置して、ハンドメイドのキッチンやタルトなどの焼き菓子和コーヒ、そして自然派のワインを提供している。静かな住宅街の中で本を読みながら思い思いの時を過ごせる人気店となった。

「厨房の中で仕事をしていてもお店の様子がわかるように、窓を作っていました」

改修の設計デザインは『無相創』に依頼。

「世界観に惹かれ、ずっと通っていた店です。今回、自分の家を丸ごとお願いすることができてとても幸せです」

1階のお店部分は古材やアンティークを使用し、照明器具はすべて『無相創』のオリジナル。壁

は珪藻土、電気の配線には銅管を使っている。隅々まで心を配り丁寧に仕上げることで、居心地のいいセンスあふれる空間に仕上がっている。そして2階はプライベートな空間に。外断熱にしてペアガラスも導入。

「お気に入りの窓を残しながら、外も中もリノベーションすることで、驚くほど暖かく、快適な住まいになりました」

**アンティークの
スイッチの存在感**

1.照明器具はほとんどがオリジナルだが、このランプシェードは見附さんのお母さまのハンドメイドなのだそう。2.アンティークのスイッチを10種類集めてスイッチプレートに。素敵なインテリアのポイントになっている。

